

# みんなで支える 地域の医療



■問い合わせ…健康づくり課☎72-8315

いつ、どこにいても必要な医療が受けられる社会は医師の皆さんのおかげで支えられています。しかし、今、医療現場では「医師の長時間労働」などを原因とする「医師不足」が問題となっています。その中で、上手に医療機関にからないと医療を受ける患者にとっても「質の高い医療が提供されない」「緊急性を要するのに受け入れてもうえない」など、デメリットが生じます。



**皆さんの協力が必要です！**

自分自身や家族など、大事な人がもしもの状態に置かれたときに安心して医療を受けられる、適切な処置をしてもらうためには皆さんの協力が必要です。そのためには、各医療機関の役割の違いを正しく理解し、利用しましょう。医院やクリニックといった診療所は、日常的な病気やケガの治療に、総合病院は、手術や入院が必要な場合や救急医療を要する場合に。そうすることで、医師の負担が分散され、質の高い医療サービスが提供でき、地域の医療体制を維持することにもつながります。

## 医療は医療従事者と市民の総合力 適切な受診で双方が良好に

私たちは、市民の病院として皆さんの総合的な健康維持のお手伝いをしています。総合病院は幅広い診療サービスを提供しており、救急の中核となる役割も果たしています。主に日中の外来診療と夜間の救急診療がありますが、日中と夜間の医療体制は大きく異なります。当院の夜間は当直医1人、看護スタッフ2人体制。もちろん真摯に拝見させていただきますが、日中と同じように気軽に受診という感覚で来られると、その際に本当の重症者が来た場合、対応

ができないことがあります。これは双方にとって不利益で、こちらも満足な医療の対応ができません。  
かかりつけ医を持ち、日頃からその先生と信頼関係をつくっておいて、突発的に起きたことへの対応についても、前もって相談しておきましょう。医療とは医療従事者と皆さんの総合力です。かかりたい時にかかることが一番であり、適切な医療サービスを提供するためにはみんなで適切な受診先や方法を考える必要があります。



北上済生会病院  
福島 明宗 院長

### — いつでも医療機関を受診できると思っていませんか？ —



救急車なら  
確実で安心！



夜は空いているから  
すぐに診てもらえそう

今、当市の医療現場では、緊急性がないにもかかわらず、救急病院にかかるたり、救急車を呼んだりする人が増えています。軽症にもかかわらず自己都合で、外来診療を行っていない休日や夜間の時間帯に病院の救急診療を利用する「コンビニ受診」をする人が増えており、必要な人に救急医療を提供する体制に支障を来しています。さらには、総合病院に勤務する医師が休憩時間や休日を取得できず、長時間労働により、医師本人の健康を害する恐れがあるなど、医療現場は過酷な状況となっています。今回の特集では、皆さんの健康、そして地域の医療体制を維持するために、身近な医療機関で受診することの重要性などについて当市の医療に関わる人の声を紹介します。上手に病院にかかることは、地域の医療を守り、支えることにもつながります。私たち一人一人に何ができるか一緒に考えてみましょう。

## かかりつけ薬剤師を持ち お薬手帳も忘れずに

薬局では地域の皆さん方がお薬をより安全に、効果的に使えるよう飲み合わせなどをチェックしています。

「お薬手帳」に飲んでいるお薬をまとめていただくことで薬の重複や飲み合わせなどの確認ができます。また、副作用歴やアレルギーなど

などの体質を書くところもあり、個々人に合わせたお話ができるのでぜひ1冊お持ちください。

普段からいろいろ相談できる「かかりつけ薬剤師」を持つことをお勧めします。どんなさいなことでもお気軽にご相談ください。一緒に解決していきましょう！



キセキレイ薬局  
三浦 正樹 管理薬剤師  
(北上薬剤師会長)

### ▶お薬手帳はどこでもらえるの？

全国の調剤薬局で無料でもらえます。医療機関から処方箋をもらったら調剤薬局にご相談ください。また、スマートで使える「eお薬手帳」もあります。詳細は右記からご覧ください。



北上市健康づくり課  
小笠原 謙 課長



北上市 モバイルクリニック  
ユーチューブで動画配信中

### ▶モバイルクリニックって？

看護師が専用車両に乗って、患者の自宅を訪問、車内で遠隔地の医師のオンライン診療を受診する、新たな医療提供の方法です。

病院に移動することなく、かかりつけ医の診療を受けることができます。また、看護師が患者のサポートをするので、オンライン診療に必要な機器操作は不要です。

することができます。

また、きたかみ健康福祉ポイントが貯まるウォーキングコースがありますので、生活習慣病の予防をしましょう！

なお、通院困難な人への選択肢として、モバイルクリニックもありますのでぜひご活用ください。

詳しくは市のホームページをご覧ください。

車内の診察の様子

詳しくは市のホームページをご覧ください。

車内の診察の様子

## かかりつけ医を持ち気軽に相談を

私たち地域の病院は、日常的な病気や健康問題を診療・治療します。また、健康に関する相談のほか、必要に応じて専門の医療機関を紹介します。市内には専門性のある先生がたくさんいますから、専門的な治療ができ、さらに専門性が高い診療の紹介ができます。

日頃から総合病院や専門の医療機関とも連携し、どのようなケースが紹介すべきなのかも検討しており、これらは総合病院に対する負担の軽減につながっています。



いわぶち脳神経クリニック  
岩淵 崇 院長(北上医師会会長)

### ▶かかりつけ医を持ちましょう！

かかりつけ医を探したい、近くの医療機関を探したい人は医療情報ネット（ナビイ）をご利用ください。夜間診療所や休日当番医などさまざまな項目から探すことができます。



かかりつけ医を持つことで私は皆さんの日頃の健康状態を知ることができ、症状に応じた専門医や総合病院の紹介もスムーズに行うことができます。病気の早期発見・治療にもつながりますので、まずは身近なかかりつけ医を持ち、気軽に相談してください。これを聞いたらどうなんだろうという方は考えなくて大丈夫です。何でも聞いてください。皆さんと一緒に効果的な治療を考え、適切な紹介をしたいと思っています。



北上地区消防組合消防本部警防課救急係

高橋 洋充 係長

## 救急車を呼ぶ前にできることを

昨年の救急車の出動件数は過去最高の4,442件で、1日平均では12.1件です。現在、北上地区消防組合では7台が出動できる状態で、過去には管内の車両が全て出動したこともあります。その中であきらかに重篤ではない、見た限り軽症だと判断できる状態での救急要請は適正な利用ではないと感じます。

救急車はあくまでも緊急を要する重篤な患者さんが対象です。す

ぐに119番ではなく、かかりつけの医療機関へ相談できないかお考えください。ただし、救急の判断は非常に難しいと思いますので、不安に思った際は通報いただいて構いません。日頃から食生活や生活習慣を整え、かかりつけ医に緊急時の対処を含め相談するなど、皆さんが事前にできることをしっかりやってもらった上で救急車の適正な利用をお願いします。

### ▶子どもの体調が悪くなったら？

【子どもの救急電話相談】  
■受け付け時間…19時～翌8時（年中無休）  
■電話番号…#8000または019-605-9000

【子どもの救急ガイドブック】  
子どもの具合が悪い時の症状の見分け方を発熱やけいれんなど九つの症状別に紹介しています。

